

「健康で心豊かに長生きをしましょう。」

平成 29 年 5 月 30 日  
村山 章

「人生哲学」や「経営哲学」など、哲学にはかなり難しいイメージがあります。確かにソクラテス、プラトン、アリストテレスなどの哲学を深く専門的に学べば、きりがいいほど難しい学問となるのでしょうか。ただ、以前は「どういう生き方をしようか」とか、「どういう生き方をすべきである」とか、人間としての生き方、考え方を話し合う場で、わりと気軽に「人生哲学」という言葉が使われていたように思います。「人様に尊敬されるような人間になりなさい」とよく言われ、「あの人は人格者だからああ言う人になりなさい」と言われたこともあります。これらにも“めざすべき人間”のメッセージがありました。あるいは「自分がされて嫌なことは、人様にしてはいけない」「自分がされて嬉しかったことを人様にしなさい」など子供の頃には、生き方について色々言われた記憶があります。物事に対する庶民の見方、考え方がこのように「人生哲学」として培われていたのではないのでしょうか。

「経営哲学」においても私は、「自分が贅沢をするための経営なんてあり得ない。人様の何倍も働いて全ての関係者に幸せになってもらう」という考え方を基本に置き、「哲学」として学んでいます。花村萬月さんの作品のなかに「昔の人は5時間働き、5時間考え事をしてきたから幸せだった」という一節があります。昼間は一生懸命に仕事をしていながら、夜になるとテレビのバラエティを見て一日が終わるのは寂しいですね。布団のなかで一日の反省をし、明日の計画を練ってみる。「哲学」とまではいかないにしても、考える行為はやはり大切なのだと思います。恵まれた環境のなかで周りに流されて生きるスタイルは楽ではありますが、もったいない生き方ではないのでしょうか。自分の人生をどう切り開いていくか。一日一日考え、強く逞しく生きたいものです。やはり「哲学」は最終的には自分との戦いに落ち着くのでしょうか。共に人生を生き抜きましょう。